

タイトル

施設でおもいきりぜいたく湯

事業所

台東区立特別養護老人ホーム三ノ輪

発表者：添島 沙奈衣（そえじま さなえ）

アドバイザー：金子 ゆみ子

共同研究者：宮崎 美幸 神谷 類 手塚 収 山本 直人

電 話

03-5603-2231

E-mail

t-mino@bz03.plala.or.jp

FAX

03-5603-2232

URL

minowa-melfare.web.infoseek.co.jp

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

台東区社会福祉事業団が母体である特別養護老人ホーム三ノ輪では、「入所者・利用者の満足の追及」「施設の発展性と安定性の追求」「職員がやりがいのある職場環境の追求」の3つを経営理念として、サービス向上に努めています。

《1. 研究前の状況と課題》

平成 17 年度から段階的に、効率優先の入浴方法から、個々の状態にあった入浴方法として各階へ個別浴槽を設置し、ゆったりとしたマンツーマン入浴を始めていた。平成 21 年度に環境整備が整い、全面的にマンツーマン入浴に移行した。その中で普段使用しなくなった大浴場を活用し、生活の一部である入浴を工夫することで清潔保持だけでない、楽しさを提供することはできないかと考えたのである。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

○目標

入浴の工夫で生活に潤いの時間を作れるように、季節や懐かしい思い出を取り入れて楽しんで頂く全入所者を対象とした『イベント湯』を入所者と共に企画・実施していく。

○期待する効果

- ・季節を感じて頂けたり、気分転換が図れる。
- ・一緒に作り上げていく事で生まれる、信頼感や達成感

- ・生活の質の向上に対する職員意識の変化

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ・入所者の希望を取り入れた「温泉」「お祭り」「花見」「映画」などテーマの決定
- ・テーマにそって草津や浅草、河津等地域の特定をし、「湯もみ実演」「映画鑑賞会」等、より具体的な内容の決定及び、準備

《4. 取り組みの結果と考察》

- ・普段はほとんど声も出されない方が歌って下さったり、笑顔を見せてくださった。
- ・終わった後も利用者同士の会話になるほど記憶に残る質の高いイベント湯が実施できた。
- ・「湯もみ実演」等の体験型のイベント湯や特定の地域をテーマにし、リアリティを求めたことで、外出や余暇活動に制限のある方でも旅行に来た気分を味わっていただくことができた。
- ・視覚、聴覚、嗅覚への働きかけができ、どんな方でも何らかの刺激があったと思われる。
- ・大浴場だけでなく、個浴、機械浴場も飾りつけなどをし、全ての方に楽しんで頂けた。
- ・工夫することでQOLは向上していくという事を職員自身も実感することができた。
- ・このような工夫を生活1つ1つの中でも実施していくことが大切だと考える。

《5. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、写真掲載はご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

【メモ欄】

